

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2022年度第2回文系・理系グループ分野連携合同会議

議事概要

(社会福祉学、英語教育学、法律学、社会学、教育学、統計学、体育学、政治学、国際関係学、コミュニケーション関係学、経営学、経済学、会計学、心理学、被服学、物理学、化学、機械工学、建築学、経営工学、数学、電気通信工学、土木工学、生物学、美術・デザイン学)

I. 日時 : 令和4年10月29日(土) 16:00~18:00

II. 場所 : ZOOM 会議室

III. 出席者 : 57名

(社会福祉学分野)戸塚委員長・山路委員・天野委員、(英語分野)原田委員、(法律学分野)加賀山委員長・吉野委員・中村委員・村田委員、(経営学分野)宮林委員・伊藤委員、(経済学分野)山崎委員・林アドバイザー、(会計学分野)岸田委員長・阿部委員・金川委員・福浦委員、(心理学分野)木村委員長・片受委員、(被服学分野)阿部委員長・石原委員・石垣委員、(物理学分野)寺田委員長、(化学分野)小林委員長・幅田委員・庄野委員、(機械工学分野)角田委員長兼総括委員長・田辺副委員長・高野委員、(建築学分野)澤田委員・柳沢委員、(経営工学分野)井上委員長・後藤委員、(社会学)土屋委員・犬塚委員・亀井委員、(教育学)舟生委員・竹熊委員、(統計学)竹内委員・今泉委員・西川委員、(体育学)内山委員・田附委員、(政治学)清滝委員、(国際関係学)佐渡友委員・柏崎委員、(コミュニケーション関係学)鈴木委員、菊池委員、(数学)井川委員・山崎委員、(電気通信工学)鈴木委員・星野委員、(土木工学)栗原委員・武田委員、(生物学)須田委員・佐野委員・西村委員、(情報専門教育分科会)大原主査
事務局 : 井端事務局長、山田、中村

IV. 議事の経過

角田総括委員長(機械工学分野)の議事進行により、分野連携アクティブ・ラーニング対話集会の具体的な開催内容について、①開催趣旨、②話題提供、③意見交流の確認、および事前アンケートの内容と対話集会の具体的な進め方について委員の役割分担を含め検討を行い、以下のとおり決定した。

1. 開催趣旨

対話集会では、開催要項のとおり ICT を活用した学びの個別最適化への取組み、対面と遠隔を効果的に組み合わせたハイブリッド授業や PBL の取組みを如何にデザインし、問題発見・課題設定解決型教育を推進していくべきか、学修環境も含めて探求し、改革行動につなげていく場とすることを確認した。

2. 話題提供内容と提供者

① 会計学分野

話題提供者 : 関西学院大学国際学部教授 木本圭一 氏

タイトル : 「反転授業に教室外非同期型グループワークを取り入れた授業方略の取組み」

内容 : 事前学修でグループの各学生が企業の経営戦略及び財務データを調べた結果を Google Document に記名で書き込み共有した上で、対面授業のグループワーク演習により、知識の定着・活用が向上した授業改善を紹介する。

② 社会福祉学分野

話題提供者 : 淑徳大学総合福祉学部教授 戸塚法子 氏、松山恵美子 氏

タイトル : 「『デザイン思考』を取り入れた福祉実践教育の試み」

内容 : 身近な地域を素材に学生たちの「発見」をもとに創り上げていく「チーム型演習」を取り入れる中で、ネット上で有益な情報を福祉的視点から発掘し、地域の固有情報と組み合わせ「誰でもが引き出せる情報」にデザイン(福祉マップ化)する効果と課題を紹介する。

③ 社会学分野

話題提供者 : 東北工業大学ライフデザイン学部講師 亀井あかね 氏

タイトル : 「ICT を活用した商品開発・販売の地域振興課外演習の試み」

内容 : 学生自身が開発に取り組んだ商品及び販売の課題を掘り起こすために、情報技術を駆使してデータを

収集・分析し、その結果を地域協力者に提供することにより、学生が学びの重要性に気づき主体性が身に付く学びの試みを紹介する。

④ 数学分野

話題提供者：流通経済大学法学部教授 井川信子 氏

タイトル：「数学授業の学修意欲を維持し、学修成果の向上を目指した遠隔授業方略の試み」

内容：90分のフルオンデマンド授業では成績下位者をつなぎとめられないので、全員に60分のオンデマンド授業を行った後で希望学生が30分のリアルタイム授業又は対面授業(ハイフレックス)にした結果、学修意欲の継続で下位者が減少した授業実践を紹介する。

⑤ コミュニケーション関係分野

話題提供者：早稲田大学商学大学院教授 鈴木利彦 氏

タイトル：「ICTを活用した自立的・自律的な国際コミュニケーション・スキルズ演習の取組み」

内容：米国、英国などの学生たちとLMSで学生が自主的に作成したPPTや画像、ビデオを共有して意見を述べ合い、他者理解と自己表現スキルを体験学習する場としている。また、ZoomなどSNSを活用し、学生たちのスケジュールに合わせてビデオチャットを行うことにより自立的・自律的なグローバルコミュニケーション演習が可能となった授業実践の取組みを紹介する。

⑥ 国際関係学分野

話題提供者：東洋大学国際学部非常勤講師 柏崎 梢 氏

タイトル：「地域社会と大学を結ぶハイブリッド型フィールド調査実習の効果と課題」

内容：学生主導によるオンラインでのインタビュー及びアンケート調査と短期集中型で実施したフィールド調査は、現地の受け入れ負担の軽減、持続性においても評価された。PBLの主体性及び手法が学生と地域双方において共有された点が新たな成果となった。一方、履修者数が限られるという点で、指導体制の充実をどこまで図れるかという授業実践の課題も含めて紹介する。

⑦ 教育学分野

話題提供者：創価大学教育学部教授 舟生日出男 氏

タイトル：「学校の問題を分析し、解決策を検討するケースメソッドにICTを活用した効果」

内容：学習成果物の共有・相互閲覧に難があったため、ケースメソッドを個人で検討した結果を収めたファイルやグループでの検討内容を記述するファイルをネット上の共有フォルダに置くことで、学生が相互に参照できるようになり、グループ内やグループ間での共有を促進できた授業実践について紹介する。

⑧ 統計学分野

話題提供者：実践女子大学人間社会学部教授 竹内光悦 氏、武蔵野大学工学部教授 西川哲夫 氏

タイトル：「データサイエンス教育における対面とオンライングループワークの比較」

内容：社会調査実習でのオンラインと対面時の学生スタッフにおける効果の比較と、コンテスト参加に向けたOneNote活用の対面とオンラインの授業として、日々の議論、調査分析の記録・結果をその中に置き共有することで、グループワークの合意形成を早める効果が見られた授業実践の比較について紹介する。

⑨ 機械工学分野

話題提供者：金沢工業大学工学部教授 河合宏之 氏

タイトル：「DXツールoViceを用いた課外学習支援の試み」

内容：従来対面で行っていた課外での学習支援を、DXツールoViceを用いてオンラインで実施したメタバース空間にアバターとして参加することにより、教員と学生、学生間での教え合いを可能とした授業実践の試みについて紹介する。

3. 意見交流

以下の項目について意見交流を行うことを確認した

- ① ICTによる学びの個別最適化の工夫、ハイブリッドによる学修の質・効果を高める授業(反転授業PBL等)の工夫と課題
- ② ハイブリッドな学修プラットフォームに必要な機能の強化対策、授業価値の最大化に向けたFD対策の在り方

- ③ ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する実験授業のニーズ
- ④ PBL で獲得する思考力等の点検・評価・助言モデル構想の実現可能性

4. 事前アンケートの内容

意見交流では、申込者から提出された以下の項目のアンケート結果を運営に役立てることを確認した。

- ・学修者の学びの個別最適化に向けて配慮している取組みについて
- ・遠隔授業の状況と学修評価の方法、不正防止対策、学生側の課題について
- ・問題発見・課題解決型教育(PBL)の導入理由について
- ・「対面と遠隔を効果的に組み合わせる PBL」の工夫と課題について
- ・「対面と遠隔を組み合わせた授業全体の学修プラットフォーム」に求められる機能について

5. 対話集会における運営検討と役割分担

対話集会は予定通り令和4年12月17日(土)13:00~17:00、オンラインにて開催し、対話集会における進行役委員を各分野から選出し、当日に事前打合せを行うことを確認した。